

「研究テーマ」

新聞に親しみ、新聞を活用し、表現力を磨く児童の育成

篠山市立味間小学校 校長 酒井 由雄
教諭 阪下 嘉一

1. はじめに

本校は、N I Eの実践指定校となり、2年目である。今年度は、「新聞に親しみ、新聞を活用し、表現力を磨く児童の育成」をテーマに取り組んだ。昨年度の成果として、新聞が身近にあることが、子どもたちにとって新聞に対する興味・関心を高める結果につながったことを踏まえ、本年度も、子どもたちがよく通る多目的ホールに、新聞コーナーを設け、いつでも新聞に触れ、読める環境づくりを行った。さらに、本年度は、発達段階に合わせ、全学年で新聞を活用した授業を展開したり、特別活動を通して、新聞を全校生に発信する活動を行ったりと、新聞を通して言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力の育成を図った。

2. 各学年の取り組み

(1) 1年生の実践

1年生では、スポーツや学習など、子どもたちの興味がありそうな記事を廊下の見える位置に掲示し、新聞に対する興味・関心を高める活動を続けた。ただ、掲示するだけでなく、朝の会や終わりの会で記事内容について話すことで、より理解を深めることができた。

新聞自体は文字も多く、全てを理解するのはなかなか難しかったが、絵や写真などを中心に楽しみながら新聞に親しむことができた。



<新聞記事掲示>

(2) 2年生の実践

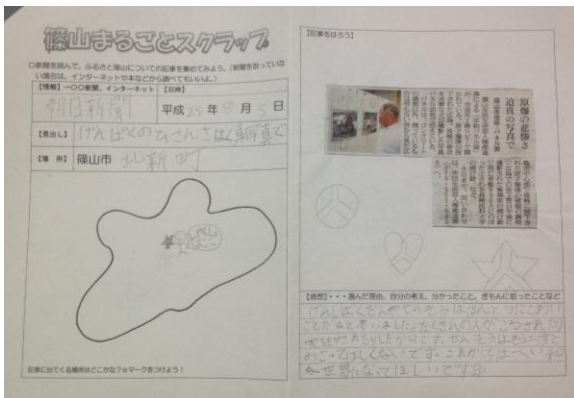
2年生では、「新聞に親しむ」ことをねらいに、体育の授業で新聞紙リレーに取り組んだ。バトンの代わりに新聞紙を使い、体に新聞を当てて、落とさないように走るリレーである。新聞の軽さや手触りを味わいながら、楽しく新聞に親しめた。また、新聞を開いて使うことで、書いてある内容にも目が向き、体育の後に、使った新聞を読みに来るなど、新聞に興味を持つ児童もおり、新聞への関心が高まった取り組みになった。



＜新聞リレーの様子＞

（３）３年生の実践

３年生では、社会科の地図学習の発展として新聞を活用した。新聞は、発達段階に応じ、丹波篠山のページ（地方版）に限定し、その日、篠山で起こった出来事の中から、気になった記事をスクラップするようにした。抜き取った内容は、「情報元」「日時」「見出し」「場所」の４つである。ただ、スクラップするだけでなく、社会科で学習した篠山市のかんたん地図（デフォルメ地図）を使い、その出来事が篠山のどこで起こったのかを調べ、地図に☆印を付けた。こうすることで、各地域の位置関係の理解を深め、社会科の学習に大いに役立てられた。



＜スクラップ作成の様子＞

（４）４年生の実践

社会科の地図を使った学習で、新聞を活用した。３年生から引き続けている系統的な学習である。地図だけでは難しいので、気になった記事を切り抜き、その記事が起こった場所を略地図で表した。児童は、自分の気になった記事が、どこで起こったのかを意欲的に地図帳を使って調べることができた。

また、国語の学習では、新聞の４コマ漫画を使い、起承転結を考えた文章作りに取り組んだ。４コマ漫画が文章構成の学習につながることは、子どもたちにとって、とても興味深く、熱心に学習した。



＜スクラップ作成の様子＞

(5) 5年生の実践

1. 最新の情報を新聞から入手する。

(1) 「貿易をめぐる問題」の学習で、「日本の貿易額のうつり変わり」で、日本が貿易赤字、貿易黒字になっている事実を読み取る場面がある。しかし資料は2008年まで。しかし、神戸新聞2013年10月22日付に最新のデータが載っていた。

2013年度上半期では、貿易赤字が5兆円に迫ることが分かった。子どもたちと理由を一緒に考えていく。新聞を読んでいく中で以下の理由が分かった。

理由①・・・原発停止と円安の影響 理由②・・・スマートフォンの輸入増加
貿易赤字・黒字から様々な社会的要因を知る機会になった。

(2) 「食料生産の問題点」の学習で、「表示偽装」の学習をした。その折にビジネスホテルが不適切表示をした事件が神戸新聞2013年10月23日付に掲載された。児童はテレビでもよく聞いていたニュースだったので、関心も高く、理解の助けになった。

(6) 6年生の実践

6年生では、新聞の記事を活用した平和レポートを作成した。夏休みの間、新聞には、ヒロシマ（8月6日）、ナガサキ（8月9日）の原爆や、終戦（8月15日）などを中心に、多くの戦争に関する記事が掲載される。その記事を基に、平和について考える課題に取り組んだ。

- ①平和に関する記事を選ぶ。
- ②記事について、自分の考えたことを書く。
- ③記事について、他の人にも意見を聞く。
- ④再度、自分で考えたことを書く。

新聞記事は、教科書などで学ぶ以上に、具体的で問題点が明確に記述されている。そのため、難しい言葉があるものの、平和について真剣に考えることができた。



< 平和レポート >

(7) 委員会活動の実践

多目的ホールに新聞コーナーを設けるだけでなく、放送委員会の活動の中に「今日の出来事コーナー」を作り、気になった記事を全校児童に向けて放送する取り組みを行った。紹介した記事は、赤枠で囲んで多目的ホールに掲示するようにした。より多くの児童が、紹介された記事を見に来て読んでいる姿がたくさん見られた。



< 新聞記事紹介の様子 >

3. アンケートの集計

(1) 新聞を読みますか。

年度	読む		時々読む		読まない	
	24年度	25年度	24年度	25年度	24年度	25年度
3年	33%	40%	53%	37%	14%	23%
4年	20%	34%	46%	31%	34%	35%
5年	22%	24%	50%	48%	28%	28%
6年	23%	34%	51%	28%	26%	38%

(2) どこを読みますか。

	家	学校
3年	62%	38%
4年	82%	18%
5年	79%	21%
6年	73%	27%

<考察>

「読む」と答える児童の割合はどの学年も増えている。「時々読む」と答えた児童が、新聞への興味を深めたことが分かる。ただ、「読まない」と答えた児童の割合は、大きな変化は無く、新聞に興味がない児童に、どのような手立てをしていけばいいののかという点が、今後の課題である。

「新聞をどこで読むのか」という問いには、「家」と答える児童が多い。ただ、近年、新聞を取っていない家庭も多く、「学校で読む」と答えた児童の割合が3割近くある実態は、学校での取り組みが、いかに大切かが分かる。

4. おわりに

<成果>

継続的に取り組むことで、着実に新聞に興味を持って読もうとする児童が増えてきている。また、新聞を活用した授業においても、発達段階に合わせ、新聞から新聞の書き方を学んだり、資料として記事を読み取ったりと、言語活動の充実を図る授業の展開ができ、表現力を高めることができた。

<課題>

少しでも新聞に興味を持っている児童に関しては成果が見られたが、新聞に関心がない児童に対して、どのように興味を持たせていけばいいのかが今後の課題である。また、「新聞コーナー」についてもマンネリ化しつつある。新たな手立てが必要である。